

会議名称	第3回 掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会		
開催日時	令和4年6月4日(土) 13:30~15:10	開催場所	環境資源ギャラリー 大会議室
参加者	検討委員：平井委員長、鈴木副委員長、石川委員、大橋委員、木村委員、村上委員 掛川市：高柳副市長、都築部長、松永課長、石山主幹 菊川市：赤堀副市長、鈴木部長、戸塚課長、中畷係長 傍聴：計29名(市民23名、市議3名、プレス3名)、Youtube視聴：22名(最大同時接続人数)		
<p>1 開会(13:30)(司会：石山主幹)</p> <p>2 挨拶(平井委員長、高柳副市長、赤堀副市長)</p> <p>平井委員長：これまで2回検討委員会を開催させていただいた中で、基本構想における産業廃棄物及び一般廃棄物を混焼させる公民連携方式について、感じる点・疑問点を議論してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回目である本日は、事務局より市民対話集会の報告、ギャラリー敷地内への建て替え調査、事業者側から見た収支バランスについて説明していただき、議論を深めていきたい。 ・委員の皆様から貴重な意見を頂きたい。 <p>高柳副市長：お忙しい中、委員の皆様についてはお越し頂いて感謝申し上げます。また、傍聴者の皆様、ライブ配信の視聴者についても感謝申し上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの2回の検討委員会で整理すべき論点等について明確になってきたように感じる。 ・検討委員会の進捗等を報告するために、4月29日(金・祝)に満水区の区民の皆様、5月14日(土)に西山口・東山口・日坂・東山地区の区民の皆様を対象とした市民対話集会を開催したところである。 ・詳細は検討委員会にて報告させていただくが、産業廃棄物の受け入れは認めないこと、市民への説明が不足していること、満水区からは一般廃棄物受け入れの延長であれば認めること等のご意見をいただいたところである。 ・本日も委員の皆様より忌憚のない意見をいただきたい。 <p>赤堀副市長：本日は検討委員会にお越し頂いて感謝申し上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月21~23日にかけて、菊川市内で上水道の水圧低下及び断水が起こった、東名高速道路の埋設管(100mm)の破損によるものである。 ・水道管は漏水時に道路に吹き出るためわかりやすいものであるが、漏水が水路に排水されたため発見が遅れてしまった。市民からの水路の水量増の通報により特定できた。 ・菊川市民の皆様については、3日間の水圧低下や断水でご迷惑をお掛けした。お叱りの言葉をいただくとともに、激励の電話やお礼の言葉等をいただき、自分が断水で大変だったにも関わらず、他人を慮る市民が多いことに対して嬉しく感じた。 ・破損した水道管は50年経過している管であり、東名高速道路の埋設管のため荷重がかかっていたのではないかとと思われる。 ・施設整備をしっかりしないと市民に迷惑をかけてしまうことを実感するとともに、新廃棄物施設についても市民に迷惑かけないようにしていきたい。 <p>3 議題</p> <p>(1) 市民対話集会等の報告(資料1)(説明：石山主幹、中畷係長)</p> <p>～ 説明 ～</p>			

意見交換

平井委員長：市民対話集会における事務局の意見をご教示いただきたい。

都築部長：非常に厳しい意見を頂いたと認識している。

- ・地元、近隣地区ともに産業廃棄物の受け入れは非常に不安があること、掛川市民、菊川市民にとってごみ減量が県内トップである誇りがあり、外からのごみ受け入れについて容認できないこと等のご意見をいただくとともに、検討していく中で重要な事項であると感じた。

平井委員長：西方地区よりダイオキシンについての質問が出ているため、第2回検討委員会でダイオキシンについて説明していただいた村上委員より意見があればご教示いただきたい。

村上委員：何を焼却してもデノボ合成によりダイオキシンは微量であるが発生する。しかし、排ガスの処理段階において、ダイオキシンの発生量は極めて少なくなっている。

- ・煙突から出てくるダイオキシンは環境基準の十分の一以下に簡単に下げられる時代であり施設の位置変更に伴うダイオキシンへの健康影響は基本的に考えにくい。
- ・風の向き等の計算については、排出口(煙突)から出てくるダイオキシンの疾風汚染を考えたとしても、10のマイナス7乗(一千万分の一)以下の濃度に落ちるため心配は不要であるとする。

平井委員長：続いて、市民対話集会について地元在住の鈴木委員より意見があればご教示いただきたい。

鈴木委員：掛川市は令和2年度一般廃棄物処理実態調査において、年間1人1日あたりのごみ排出量が人口10万人以上50万人未満の部(234都市中)で少ない自治体全国1位となった。

- ・システムとしてごみ減量施策が継続できていることが全国1位となった理由であると考えている。ごみ袋への記名・分別回収が主要施策であると思う。ごみ袋の記名による見える化が行われていること、徹底したごみ分別によるリサイクル化が行われていること等が、ごみの減量に繋がっている。
- ・小学校4年生の社会科でごみのことを学ぶとともに、中学生が行う全市一斉青少年健全育成環境美化活動がある。ごみを拾う子供はごみを捨てない大人になるのではないかと思う
- ・令和2年の掛川市のごみ処理非常事態宣言時において、宣言の3日後に市内の中学校がごみ削減プロジェクトを立ち上げ、地域に働きかけることでごみ減量に取り組んだ。
- ・ごみをごみにしないことが廃棄物処理の本質であり、掛川市の子供から大人まで認識されていると考える。廃棄物処理施設は迷惑施設でなく、必要な施設であり、誇りに思っている部分もあるため、市民の意見を大切にしていけるべきである。

平井委員長：ごみ削減の意識が高いことを踏まえ、新廃棄物処理施設の検討について考えて行かなければならないと認識させていただく。

大橋委員：市民のごみ削減の意識が高いことがよくわかった。ごみの資源化の意識が高いと思うが、事務局としてはどのように考えるか。

松永課長：ごみをごみにせず、資源にしていく。市民の意識が高いものである。

木村委員：市民対話集会について、参加者数の多さから市民の関心の高さを感じた。産業廃棄物の受け入れは認められない等の意見について、委員会としてもこれらの意見を無視するわけにはいかない。

- ・ごみ減量に対する市民意識の高さに見合うような施設にしていかなければならない。

(2) 現位置での建て替えの可能性(資料2)(説明:都築部長、石山主幹)

～ 説明 ～

都築部長:試算では3年前倒しを想定しているが、建設業界の働き方改革に伴う工期の長期化、コロナやウクライナ戦争の資材等の調達への影響を考えると1年程度の前倒しが現実的であると考えている。

- ・試算では50億円を投じて施設延長を考えているが、費用対効果の観点より、外部搬出や施設延長等については方向性が固まってから検討していきたい。

意見交換

鈴木委員:配置案について、動線がどのようになるのか。10mの根拠はあるのか。

都築部長:パッカー車及び一般車両が入ってくるため、10m程度の道路幅を確保している。

- ・使い勝手は悪いと思われる人もいるかと思うが、リサイクルプラザを一部解体することで、120t炉の一般廃棄物処理施設ならば建設可能という条件設定で試算したものであり、動線等の使い勝手は二の次となっている。
- ・1日でも早く新施設を建設することを優先しており、動線等は今後検討していきたい。
- ・管理棟は残す前提であり、計量器等は既存のものを使用する予定である。

大橋委員:既存のガス化溶融炉跡地はどのようにするのか。

都築部長:新施設建設後に既存のガス化溶融炉は解体予定。跡地利用及び動線確保については今後、検討していきたい。

平井委員長:配置案1及び配置案2についてもどちらが良いのか等を議論していく中で動線は改善されていくと思われる。

村上委員:燃焼方式が変わっていくため焼却灰処理をどのように考えているのか。

松永課長:具体的な処理方法は決まっていない。外部委託により搬出することになると思われる。

平井委員長:ロータリーキルンと比べて、ストーカは焼却灰が多くなると見込まれるがどのように考えるか。

都築部長:どの事業方式になったとしても焼却灰の処理費用は検討していない。ロータリーキルンと比べてストーカは焼却灰が多くなることに対して発生する最終処分場等の問題は、次のステップで検討していきたい。

大橋委員:溶融炉は敷地面積が小さくなる等といったメリットがあるが、焼却方式は今後の検討課題であるか。

都築部長:ストーカ炉で決定している訳ではない。基本構想での業者ヒアリングの中で、建設費用やメンテナンス費用が少なく、全国的に実績が多い等の理由からストーカ炉を進めている。

- ・溶融炉で灰を減らすことを考えると、助燃材を使用して焼却することとなるが、カーボンニュートラルの面からコスト増加が考えられる等、検討課題として認識している。

平井委員長:袋井市、森町や島田市はシャフト型溶融炉で上手くいっている。ストーカを含め、今後検討していく必要がある。

- ・ストーカ炉は10%程度の焼却灰が発生するため、必要経費等は検討課題として認識する必要がある

木村委員:施設建て替え箇所の地盤はどうか。

松永課長:まず、敷地南東及び南西については、30度以下の傾斜であるため、建築法上の問題は無い。

- ・地盤調査については、山を削った場所の施設であるため問題ないかと思うが、資料が手元にないため、地盤等の資料は確認させていただく。

(3) 事業者側から見た収支バランスの計算等 (資料3) (説明：都築部長)

～ 説明 ～

都築部長：前提として、公民連携方式の事業スキームについては、掛川市・菊川市が選択するにあたり、リスク・傾向等を検討しているものであり、産業廃棄物の良い悪いといった議論をしているものではない。産業廃棄物は社会に不可欠なものであり、日本を下支えしてくださっている重要な産業と認識している。今回の検討事項としては、一般廃棄物処理量が減ったら産業廃棄物を増やすが産業廃棄物の品目は限定的にするといった事業スキームをどのように捉えたらよいか、市民の皆様の産業廃棄物に関する不安、地元の産業廃棄物事業者の経営圧迫等の観点より検討を進めている。

- ・資料3-3については、市の財政計画等に使用しているGDPデフレーターで試算をしているGDPデフレーターは物価動向を把握するための指標であり、消費のみならず設備投資や公共投資等を含めた経済全体の物価動向を示すものである。国外の影響は含まれず、すべての財やサービスに等しく掛かるため、収支への影響は少ないといった考えがあるが、税収増に伴う普通交付税の一部減、金利増に伴う公債費負担の増になることより一定の傾向を見る分については問題ないと考え使用している。

意見交換

平井委員長：カーボンニュートラルとなる社会について、カーボンプライジング、サーキュラエコノミーの考えより、ごみを埋めたり、焼却をやめていこうという流れがある。今年4月1日のプラスチック資源循環促進法の施行により硬質プラの分別が進んでいく中で、どのような方向を考えて行くのかを検討する必要がある。

都築部長：2050年のカーボンニュートラルは令和2年10月に菅元総理が表明したものである。

- ・平成30年の第5次環境基本計画の中で地域循環共生圏を進めていく中に基本構想の策定コンセプトがある。基本構想はおかしいものでなく、当時の国の環境基本計画の内容にも沿っていたものである。
- ・カーボンニュートラル等の時代の変化に伴って様々なことを検討していく必要があると認識している。

大橋委員：GDPデフレーターについてはマクロであり、現実的には個別物価である廃棄物処理コストも上昇していくものであると考える。新施設に於いての試算やさらなるコスト削減のためのごみ減量施策を進めていくが必要である。

都築部長：直近の消費者物価指数を見ても0.9%でありデフレーターより大きいものである。国外の影響も受けている中で国内のGDPデフレーターを使用するのは甘いというのはその通りである。

- ・今後は、廃棄物量増減のトレンドも考えながら検討していきたい。

石川委員：物価は見込むのが難しい。将来が不透明であることを認識する必要がある。

- ・産業廃棄物処理費用は長期的な視点では、最終処分場の不足等の課題があり処分費用が高騰してきており、産業廃棄物・一般廃棄物ともに減少となっていくと思われる
- ・産業廃棄物処理費用は今後2倍、下手すれば10倍の費用がかかる社会となっていくと思

われる。

- ・世界で実績がないため不明であるが、そのような社会になっていくと思われる。将来予測が難しいため、都合が悪いパターン等、様々なシナリオで試算をする必要がある。

都築部長：将来が不透明な中どのように検討していくのか重要。

- ・カーボンプライジングにおいて、現在、地球温暖化対策税が1 tあたり289円である。これが1万円になったケースでは、ギャラリーは年間約3万5千tの排ガスが出ていることを考えると、3億5千万円を負担増となる。市民への転嫁が困難であると思われるため、負担について市が責任を負わなければならないと仮定した検討も必要。

鈴木委員：環境面、経済面、国内、世界の動向を検討していくのは困難であること認識した。

- ・他市の公民連携方式の廃棄物処理施設の決算をみると赤字となっている。先行事例を踏まえると、産業廃棄物と一般廃棄物の混焼は難しいと考える。

4 その他

平井委員長：検討委員会を3回開催してきたが、今回をひとつのターニングポイントと考える。

- ・これまでの検討委員会で、

- ① カーボンニュートラル、ネットゼロ社会を考えていく中で適切な施設規模の検討が必要であること。
- ② リサイクルプラザ火災に伴い、リサイクルプラザの一部取り壊しによる120 t炉の一般廃棄物処理施設の建設が可能となったこと。
- ③ ②により財政負担が軽減される可能性がでてきたこと
- ④ 両市のシビックプライド、市民のごみ減量における誇りがあること。

が判ってきた。

- ・検討委員会は、掛川市・菊川市の最適な整備手法を考えていく段階に入ったと判断する。次回の検討委員会において、事業方式等を含め、一般廃棄物のみ受け入れをする120 t炉の施設の資料の提供をお願いする。

都築部長：承知した。次回の検討委員会までに準備し提供させていただく。

次回日程

司会：第4回掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会
令和4年6月26日（日）環境資源ギャラリー 大会議室

4 閉会（15：10）（挨拶：高柳副市長）

高柳副市長：委員の皆様のご熱心な議論について感謝申し上げます。

- ・遷座の可能性が出てきた。動線・焼却炉の方式等は今後の検討課題と認識。
- ・事業者側から見た経済性の検討、新施設整備において、カーボンニュートラル等の考えが必要と感じた。

－以上－